教育長だより　No. 5

２０２１年4月２２日

プロの教師として

～ 難しいことをいかにやさしく伝えるかがプロの見せどころ ～

新年度になり、ときどき学校をまわっています。先日、入学式の日は北野小学校へ行きました。まずは「学級びらき」を見せてもらおうと、歩いてまわりました。短時間でしたので、配布物をされているクラスや、教科書を順番に取りに行ってるところもありました。いくつかのクラスでは、担任のみなさんが新しいスタートにかける思いを熱く語っておられました。うれしかったです。

そして、ちょうど入学式が始まったようなので、体育館へ向かいました。校長先生の式辞の直前でした。空いている椅子に座りました。校長先生が登壇され、「新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。」と言われると、子どもたちは（ここで返事をしていいのか、ややとまどいながらも）「ありがとう！」と、口々に大きな声で返していました。そう、ここが登壇した者がとまどうことなんですね。私は中学校教員でしたから、隣町で来賓として初めて小学校へ行ったときはびっくりしました。あいさつの合間に受けごたえがあるということは、中学校では全くありませんでしたから。以来、小学校で自分があいさつするときは、「間(ま)」を空けるようになりました。

式辞の話に戻します。山本校長先生は新入生の呼名点呼の返事が素晴らしかったことを評価された後、「今から学校で大切な『３つの耳』のお話をします。」と続けられました。「まず、一つ目は、鉄砲耳です。」と言いながら、なにやら長い棒を出してきました。一年生の目はそこに集中です。こそっとその下の方を押し込んだとたん、「パーン！」と玉が舞台下手の方に飛んでいきました。みんなびっくりです。紙鉄砲です。「もう一回やるよ。」と言って、また、「パーン！」子どもたちの目は、一斉に飛んだ玉の方へ。そして、新入生の方を向いて、「こんな風に、片方の耳から入ってきたことが、反対側からそのまま出ていくことを『鉄砲耳』と言うんですよ。」と、ジェスチャーをしながら話されました。

「続いて、『２つ目の耳』です。」と言って、演台の下から取り出したのは台所で使う水桶。次に、そこからザルを出しました。子どもたちは「次は何が始まるんだろう？」と、興味津々。そこに、ペットボトルに入った水を出して、「さあ、これからここに水を流します。どうなりますか？」と言って、水を注ぎはじめました。もちろん、水はそのまま桶へ。校長先生は「お話したことが、そのまま流れ落ちて、ザルには何も残りませんね。これを『ザル耳』と言うんですね。」と。

「３つ目は、これです。」と言いながら、大きなガマグチ（財布）を出しました。そして、紙でつくった大きな１００円玉を中へ。プチっとふたをして、その財布を上下に大きく揺すりました。その姿を見て何人もの子がゲラゲラと笑っていました。やがて、「中に入れたお金は、どうなったんでしょう？」と言いながら、ガマグチを開けて、「ほうら！　ちゃんとお金は入っていますね。」子どもたちの反応に気をよくして（？）、「もう一回しますよ。」と繰り返しました。またもや財布を大きく揺する（１回目以上の大きな動作）と、さっき以上に子どもたちがゲラゲラ。そして、財布を開けてお金を確認すると、こう話されました。「お金は入ったままですね。こんな風に一度入れたことはちゃんと頭の中に残すような耳を『財布耳』と言います。」と説明し、学校の勉強では先生の話をしっかり聞くことの大切さを伝えられました。

（裏面へ）

私は「さすが小学校の先生やなあ。」と感心して聞いていました。子どもたちの発達年齢に応じて話すこと、また、動きをつけてつたえることの大切さを改めて考えさせてもらった一場面でした。

中学校でも戸惑うことがあります。中学校は基本「持ち上がり」ですから、３年生を卒業させたら先生たちは次は１年に降ります。つい先日まで３年生に大人のような感覚でしゃべっていたのに、４月になって同じ調子で１年生にしゃべると、生徒が「？？」と固まる場面に出会います。そのとき「あっ！　これはまずい。ちょっと難しかったな。」と思って、慌てて言いなおします。中学校でも、自分の頭の中に「通訳機」が必要なんです。中学校のわずか３年間でもこんなに変わるのですから、小学校の６年間の変化というのはもっと大きいんでしょうね。ましてや園では、それこそ言葉をもたない（？）０歳児から５歳児まで。人間の発達ってすごいですね。そんな子どもたちを相手にする仕事のすばらしさ、おもしろさ、偉大さとでも言いましょうか、みなさんに頭が下がります。

さて、言葉を相手に合わせてちゃんと届けること。特に教育現場では大切です。こんなときよく言われる言葉を思い出しました。**「難しいことを難しく言うのは、だれでもできる。難しいことをいかにやさしく伝えるかが大事である。」**ということです。

私、よくラジオで『こども科学電話相談』というNHKの番組を聞いています。前は夏休みだけでしたが、最近は毎週日曜日も（午前１０時５分から１１次５０分まで）やっています。植物や動物、飛行機や鉄道、さらに天文・宇宙や心と体、プログラミングやロボット・AIなど、全部で１４領域あります。それぞれ各分野の「第一人者」の先生が回答されます。おもしろいですよ。先生の回答を聞いていると、学者さんが多いので、専門用語など、時々難しい言葉が出てきたりします。「もっとこういう風に答えたらいいのになあ。」と思うこともたびたびあります。また、ときにはそうした先生から「わかりましたか？」という、学校教育の世界では「これを言っちゃあおしまいよ」的な言葉も出てきます。私は、この番組を聞いていて、難しいことをやさしく子どもたちに伝えることがいかに難しいかということをいつも考えさせられます。そして、それは私たち子どもの教育・保育のプロであっても同じだと思います。日ごろの授業や保育活動で、まずは気をつけたいですね。
なお、こども科学電話相談は、ゴールデンウィークの５月１日から５日までは、拡大版として朝８：０５～１１：５０の放送になります。